

平成20年度科学研究費補助金（基盤研究(B)海外学術調査）が採択されました。

研究課題名： 「タクラマカン砂漠上の局地循環と黄砂の発生機構の解明」

研究者： 甲斐憲次（代表者）、山口靖（名大環境）、  
竹見哲也（京大防災研）、田中泰宙（気象研）

研究の目的：

タクラマカン砂漠は、天山山脈・パミール高原・崑崙山脈など5000m級の急峻な山脈に囲まれたタリム盆地の大部分を占め、その面積はほぼ日本全土に相当する。その3次元地形に起因する局地循環は黄砂の発生に大きな役割を果たしている。タクラマカン砂漠で発生する黄砂は、偏西風で運ばれて、地球規模に拡散しやすい。気候変動への影響では、ゴビ砂漠の黄砂よりも、大きな存在である。

本研究の目的は、タクラマカン砂漠を取り巻く3次元地形と中央アジアという地理的位置に起因する局所な特性を解明し、それが東アジア域での黄砂の長距離輸送にどのように関わっているかを解明することである。この目的を達成するため、現地ライダー観測・衛星観測・数値シミュレーションという手法を総合化し、研究を推進する。

